グループホーム川中島

（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念に地域密着24時間365日、すぐやる、必ずやる、出来るまでやる、すべては利用者様のためにとあるように行える事の実践に努めている。	事務所内に法人理念、事業所スローガンを掲示して、職員の共有と実践に繋げている。そうした中、法人理念については毎朝のミニカンファレンスの中で唱和し理解を深め、日々の支援に繋げている。今年度の事業スローガン「観察眼を身に着けて正確な情報の共有」ついては職員はよく理解し、タブレット端末への記録に正確な情報を記入し、他の職員も必ず確認し、書き込みをして状況を共有するように努めている。家族に対しては利用契約時に理念、事業所スローガンなどを説明して理解をいただくようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症のため行えず。	開設以来、自治会協力費を納め、市の広報誌も配布して頂き、地域の一員として活動している。新型コロナ禍の状況が長引き、思うような活動が出来ていないが、地区社協主催の「介護教室」に管理者が講師として参加し認知症について話している。また、地域包括支援センターと連携して川中島地区の「オレンジカフェ」も感染状況を見ながら開きたいという意向を持っている。コロナ禍の状況下、ボランティアの来訪も自粛しているが、ボランティアよりの来訪申し込みもあり、感染状況を見ながら本部の許可を得て再開したいと思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症のため行えず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催	コロナ禍で書面での開催が続いていたが、今年5月より対面での運営推進会議の再開を予定している。家族代表、区長、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、奇数月の開催を予定している。再開後の会議については、利用状況や運営状況の報告、活動計画・活動報告、事故報告などの後、意見交換等を行うとともに、サービスの向上に繋がるような充実した内容にしていきたいとの意向を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括との連携は意識的に行っている。	市高齢者活躍支援課には事故・ヒヤリハット報告等を速やかに行うなど、必要に応じて連携を取っている。地域包括支援センターには月に1～2回訪問してホームの現状を話し、入居相談等で連携を取っている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応している。市のあんしん(介護)相談員の来訪も未だ再開されていないが、再開されたらお願いする予定である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修と係会を3か月に一度行い、身体拘束につながる事案はないか検討している。	方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されているが、職員は必ずホールに1名、玄関前の事務所に1名居るようにして、きめ細かな所在確認を心掛け、安全確保に繋げている。帰宅願望のある方がいるが、好きなだけ動いていただいたり、話を聞いたりして落ち着くようにしている。転倒・転落の防止のためとトイレ介助の対応のため家族と相談し人感センサーを使用している方がいる。年2回開催される身体拘束に対する研修会と3ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会で拘束に対する意識を高め拘束ゼロに向けた支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、研修会を行い、管理者中心に予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社規定の研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明をし、改定時には同意書を含め説明対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限り電話等、お話しをする際には伺うようにしている。	家族の面会についてはコロナ蔓延中は窓越しでの面会を行っていたが、現在、事前に連絡を頂き、人数は3～4名までとし会議室にて30分位を目安に対面での面会を行っている。多く見えられる家族は週1回ほど来訪している。また、10日に1回、ホームのブログをアップしており、返信を下さる家族もいる。ホームでの生活の様子は毎月発行されるお便り「グループホーム川中島新聞」でお知らせし、利用者一人ひとりの様子については担当職員が毎月手書きの手紙を書き、請求書に同封して届け、喜ばれている。コロナ前に開催していた家族会も中止の状況が続いているが来年度は「敬老会」に合わせて開催したいという意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課面談で行っている。	毎朝のミニカンファレンスに力を入れ取り組んでいる。連絡、申し送りで利用者一人ひとりの状況把握に努め、共有に繋げている。また、2ヶ月に1回ユニット会議を行い、利用者一人ひとりのカンファレンス、業務内容の検討を行っている。法人として人事考課制度があり、職員は年2回、目標管理シートを用いて自己評価を行い、管理者による個人面談が行われ、モチベーションアップに繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、面談を最低年2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加や資格取得の取り組みを推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の研修にはリモートで参加をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居したての方には特に安心感を持ってもらえるよう気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネと随時相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅の延長であることを忘れず、温かく接するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の頻度が少ないため、ご家族様には細かく連絡をするようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要な時は手紙や葉書で対応している。	家族以外の面会は現在も自粛している。携帯電話を持つ利用者がおり、家族と連絡を取り合っている。ぬり絵や書道に使う「色鉛筆」や「筆ペン」等、使い慣れた物や欲しい物については、職員が付き添い近くのスーパーに買い物に出掛ける予定を立てている。理美容については顔なじみの訪問美容師の来訪が2ヶ月に1回ありカットしている。また、年末には恒例の年賀状を家族に出し、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度の高い方は特に注意しケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様の相談には随時のるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情、仕草からその方の意向に気を付けるよう接している。	殆どの利用者は自分の意向を伝えられる状況で、言葉のキャッチボールを心掛け、希望を言えるような雰囲気作りに努めている。また、飲み物、洋服選び等は幾つか提案して選んでいただくようにしている。そうした中、意思表示の難しい方がいるが、問い掛けに対する表情、仕草、行動等で希望を受け止めるようにしている。日々の支援の中で気ついた事柄についてはタブレット端末の中の介護記録に纏め、毎朝の申し送りで情報を共有し、利用者の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や既往歴は特に把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で気付いていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時のカンファレンスにて必要なことを話し合うようにしている。	常勤職員は2名、パート職員と特定技能実習生は1名の利用者を担当し、居室管理、家族への手紙の作成、必要な物品購入等を行っている。家族の希望は入居時や面会時、電話などで聞き、担当職員がアセスメントを行い、朝のミニカンファレンスの中でモニタリングも行い、管理者と計画作成担当者がプランの作成を行っている。入居時は2～3ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見て6ヶ月のプランに切り替え、状態が安定している場合は1年とし、それぞれの期間で見直し、状態に変化が見らた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子記録はタブレットを使用し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りのニーズには対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症のため行えず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診あり。歯科医院とも連携している。	入居時に医療機関についての希望を伺い、ホームとしての取り組みについて説明している。現在は全利用者ホーム協力医の月2回の往診で対応している。また、常駐看護師が1名おり、利用者の日々の健康管理と医師との連携を図り万全な医療体制を整えている。そうした中、整形外科の受診については緊急性が高いため職員が付き添い、その他の皮膚科、耳鼻科等の専門医の受診医については家族に付き添いをお願いしている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応し、歯科医の判断により歯科衛生士の来訪もあり、口腔ケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に適切な連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとは密に連絡を取るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず、看取りの説明を行い、主治医からも早めの意見をもらうようにしている。	重度化した際の指針があり利用契約時に説明して同意を頂いている。歩行状態が変化し、入浴や食事を摂ることなどが難しい状況となり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合いの機会を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同署にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この2年以内に看取りはないが、現管理者になり8名ほどの方の看取りを行い、その都度、看取りマニュアルを作成して心の籠った看取り支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修を行っている。AEDもあり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施。	消防署へ届け出の上、年2回、防災訓練を行っている。5月には水害想定で避難場所の確認とハザードマップの詳細確認を行っている。2月には火災想定の避難訓練を行い、消火器やAEDの使い方訓練、緊急連絡網の確認訓練、通報訓練、利用者全員玄関先まで移動しての避難訓練を行っている。備蓄については「水」「缶入りのパン」等が3日分準備されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を尊重した言葉掛けを行うよう、朝礼や研修で周知している。	人生の先輩に対し尊敬の気持ちを持ちつつ、穏やかに接するようにしている。言葉遣いには特に気配りをし、利用者の目線に合わせ親しみを込め、馴れ合いにならないように配慮している。呼び掛けは苗字か名前を「さん」付けでお呼びし、入室の際にはノックと「失礼します」の声掛けをするようにしている。そうした中、入浴時に同性介助を希望する方がおり対応している。年1回、プライバシー保護に関する研修会を行い意識を高め支援に当っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選べるものは選んでいただけるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には利用者様の意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行える方は積極的にお手伝いをして下さっている。	一部介助の利用者が若干名で、他の大半の利用者は一部見守りの方もいるが自力で食事が摂れる状況となっている。献立については、副菜は季節感も加味された配食会社の食材を用い、ご飯と汁物はホームで調理して出来立ての物を提供している。そうした中、行事に合わせ、敬老会には「松花堂弁当」、正月には「刺身」等を楽しみ、時折、近所の回転寿司より「お寿司」をテイクアウトして味わっている。また、手作りのおやつに力を入れ、お彼岸には「おはぎ」を作り、「やしょうま」「ホットケーキ」「ニラ煎餅」等を作って楽しんでいる。更に、秋には中庭で「焼き芋大会」を行い、楽しいひと時を過ごしている。合わせて、時折、外国からの特定技能実習生が郷土の甘いお菓子を作り、利用者に振る舞い、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量と好みの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士からの指導も受けながら取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、ケアを行っている。	大半の利用者は一部介助という状況で、自立の方と全介助の方がそれぞれ若干ずつとなっている。タブレット端末の中の排泄表を参考に、起床時、食事前後、就寝前などの定時の声掛けを行い、合わせて利用者一人ひとりの様子を見ながら早めにお誘いするようにしている。排便については3日間ない場合はコントロールを行い、「お茶」「牛乳」「コーヒー」「ジュース」等で1日1,000～1,500ccの水分摂取に取り組み、排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	OTと相談しながらリハビリを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数にこだわらず、個々に合わせて提供している。	自立されている方とシャワー浴対応の方がそれぞれ若干名かずつで、一部介助の方が大半となっている。入浴拒否の方はなく、基本的に週2回の入浴を行い、希望があれば3回の入浴にも対応している。また、季節に応じて「ゆず湯」「菖蒲湯」等のお風呂も楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の過ごし方の様子も把握し、良質な睡眠がとれるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マイクロソフトに沿ってケアをしている。注意が必要な副作用については薬剤師にも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、塗り絵、コーヒー等、趣味嗜好に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症のため行えず。	外出時、自力歩行の方が三分の一弱、歩行器使用の方が半数強、車いす使用の方が数名という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、回廊式の廊下を歩き体力維持に努め、広い中庭に出て外気浴を楽しんでいる。コロナ禍が続き思うような外出が出来ていないが、春には「松代城址」や「城山公園」までドライブを兼ねて出掛け花見を楽しんでいる。来年度は感染状況を見ながら、また、季節に合わせ「イチゴ狩り」や「川中島古戦場」などに出掛けたいという意向を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は希望あり、所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間作りに努め、特に光、騒音、温度には気を付けている。	広い中庭を囲むように回廊式の廊下と両ユニットが配置され、廊下を一周歩くと数十メートルあり、利用者は3周ほど歩いて体力維持に繋げている。中庭のベランダにはテーブルとイスが設けられ寛ぎの場となっている。廊下の壁には写真入りで職員が紹介されており、「刺し子」「ぬり絵」「折り紙」等の利用者の作品も数多く飾られ、活動の一端を窺うことが出来る。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや和室、自室等、過ごしたい環境を大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔なじみのもの、例えば写真や趣味の物や仕事道具等、ご用意することもある。	清掃が行き届き清潔感漂う居室には大きなクローゼットと洗面台が設けられ、暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、使い慣れたタンス、イス、テーブル、座椅子、テレビ、ラジオ等が持ち込まれ、家族の写真や「折り紙」「ぬり絵」「刺し子」等の自分の作品に囲まれ、自由な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋で回廊式のため、ある程度は安全にお過ごしいただけているかと思う。中庭に出る際も段差はなく、気兼ねなく出られるようになっている。		